

女性の日本語学習者が用いる日本語の一人称と その一人称を利用している理由の考察

—タイ人女子留学生と日本人女子大学生に焦点を当てて—

スピッサラー・ポンスワン (タイ)

1. はじめに

筆者は日本語を勉強する過程で、「私」以外に「うち」、「僕」、「俺」、「あたし」など、日本の一人称が多くあることに気づいた。しかし、筆者の周りのタイ人女性学習者は、自分のことを「私」と呼ぶことが多い。男性の日本語学習者は、時折「僕」などを使っているが、女性の学習者は「私」しか使わない。その理由は何だろうか。本研究では、タイ人の女性日本語学習者が使用している日本語の一人称の実態と、彼女らがその一人称を使用している理由は何か、また日本語学習者の一人称の使用について考察する。

2. 先行研究

日本語学習者が使用している一人称について、高橋 (2019) は、自然談話での日本語学習者の自称詞使用を調査している。対象者の来日時と帰国時の一人称を調査した結果、対象者は性別に関係なく「私」という一人称の使用が多かったということを述べている。一方、日本語母語話者を対象とした研究では、たとえば野原 (2014) は、大学生の一人称の使用について明らかにするため、日本人の大学生 (95名) を対象として一人称の使用について調査している。その結果、女性は「うち」という一人称を最も使用しているということが明らかになったと述べている。以上、高橋 (2019) や野原 (2014) の研究結果から、日本語学習者 (非母語話者) と日本語母語話者では一人称の使用の違いが見られることが分かる。しかし、タイ人日本語学習者に焦点を当てた研究は見られない。そこで、タイ人の日本語学習者に焦点を当て日本語の一人称の使用に関する調査をすることで、タイ人日本語学習者特有の点などを明らかにできるのではないかと考えた。

3. 研究課題

本研究では、研究課題として以下の3点を設定した。

1. タイ人の女性の日本語学習者が最も使用している日本語の一人称は何か。
2. 研究課題1で明らかとなった日本語の一人称は、なぜよく使われるのか。
3. タイ人の女性の日本語学習者が使用しているそれぞれの日本語の一人称は、どのような理由で使用されるのか。

4. 研究の方法と分析方法

本研究では、タイ人の女性の日本語学習者（20代）を調査対象とし、まずアンケート調査を行い、その結果から疑問を思ったことをインタビューした。また、上記の調査結果についてどのように思ったのかを、同じ20代の日本語母語話者にインタビューした。

まず、アンケートの対象者は、20代のタイ人の女性の日本語学習者40名である。対象者に対し、日本語の一人称は何を使用しているか、その一人称を使用している理由は何か、など合計9項目を用意した。選択肢は、日常生活でよく見られると思われる一人称を基準とした。質問1は現在、知っている日本語の一人称を選んでもらう。選択肢は複数回答が可能である。選択肢には「うち」「わたし」「あたし」「俺」「僕」「自分」などを設けた。質問2から質問8は、相手や場面によってどのように一人称を使われているか、について尋ねた。選択肢の中から一つだけ選んで回答するように依頼した。選択肢は、「うち」「わたし」「あたし」「俺」「僕」「自分」「自分の名前」「他（自由記述）」である。最後に、質問9は最も使用している一人称についてどのような理由で使用しているかを、自由記述で回答を依頼した。以上の調査項目をまとめたのが、表1である。

表 1 アンケート項目

質問 1 現在に知っている日本語の一人称を選んでください。(複数回答可) A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E. 僕 F.自分
質問 2 先生と話す時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 3 仲の良い友だちと話す時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 4 日本語学科の先輩と話す時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 5 日本語学科の後輩と話す時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 6 見知らぬ日本人 (第三者) と話す時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 7 日本語で外国人 (クラスメイトなど) と話す時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 8 SNS で発言する時によく使う一人称は何ですか。 A.うち B.わたし C.あたし D.俺 E.僕 F.自分 G.自分の名前 H.他 (自由回答)
質問 9 ①～⑧までの質問を踏まえて、よく使う一人称は何ですか。その一人称を選ぶ理由も教えて下さい。(自由記述)

次にインタビュー調査について説明する。インタビュー調査の対象者は、20代の日本語母語話者4名である。外国人と話したことがある者のみを対象とし、表1で示したアンケートの結果から質問項目を作成した。項目は以下のとおりである。

インタビュー項目

- ・外国人が使用する日本語の一人称で、最も多く(よく)聞いたのは何か。
- ・普段、「私」という一人称を使っていますか。
- ・日本語学習者の一人称は「私」が最も使われているのですが、その理由は何だと思いませんか。
- ・使われる理由は「どんな立場でも使える」ということですが、ご自分自身はこの理由について賛成しますか。それとも違った意見がありますか。
- ・自分だったら、「どんな立場でも使える」一人称は何だと思いませんか。アンケートと同じ「私」ですか。それとも他の一人称の方があっていますか。
- ・アンケートの質問3は仲の良い友だちと話す時によく使う一人称は何ですか。という質問に対して、最も多い一人称は「私」なんですが、友達に対して「私」を使うのは違和感

がありますか。自分は友達に対してどのような一人称を使っていますか。その理由は何ですか。

・アンケートの質問3の結果は「私」以外、他に「僕」と「俺」と答える人がいますが、なぜ、友達に「僕」と「俺」を使っている理由は何だと思いませんか。

調査の分析方法について、アンケート調査の質問1～8は複数選択の項目であるため、回答をそのまま集計した。一方、インタビュー調査の結果は、考察においてフレーズを引用し、考察の参考とした。

5. 調査の結果

アンケートの質問1～9はそれぞれ、回答の仕方が異なるため、回答の仕方によって分析する。まずは質問1の結果を示す。質問1は日本学習者に現在、知っている日本語の一人称を選んでもらった。複数回答が可能で、それぞれの一人称をどれほど知っているかが分かる。結果は以下の図1のグラフである。

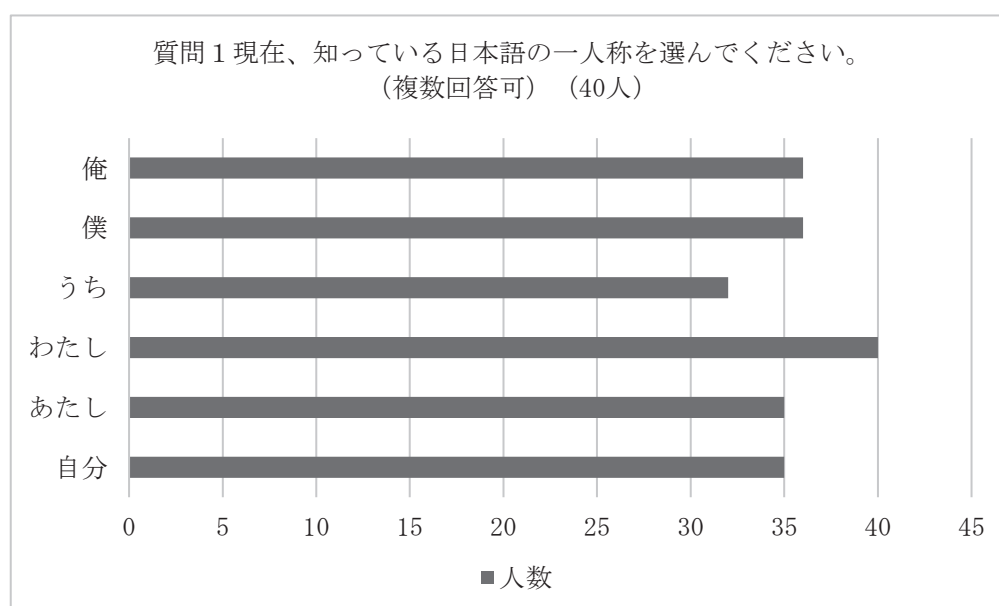


図1 タイ人女性日本語学習者が知っている日本語の一人称

図1は、質問1「現在、知っている日本語の一人称を選んでください」という質問の回答を表している。この結果から、40人のタイ人の女性日本語学習者が最も知られている一人称は、「わたし」であることがわかった(40名中40名回答)。そして、次に多く知られ

ているのは「俺」と「僕」であった。一方、あまり人数が離れていない一人称は「あたし」と「自分」であった（35名）。そして、質問1で最も少数で回答されたのは「うち」であった（32名）。

次に、表1で示した項目のうち、質問2から質問8の結果をまとめて表2に示す。

表2 アンケート質問2～質問8で選ばれた一人称の回答（n=40）

項目／ 一人称	うち	わたし	あたし	俺	僕	自分	自分の 名前	他
質問2	0	39 (97.5)	0	0	1 (2.5)	0	0	
質問3	3 (7.5)	29 (72.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	0	3 (7.5)	
質問4	0	35 (87.5)	1 (2.5)	0	0	0	4 (10.0)	
質問5	2 (5.0)	35 (87.5)	1 (2.5)	0	0	0	2 (5.0)	
質問6	0	38 (95.0)	0	0	1 (2.5)	1 (2.5)	0	
質問7	1 (2.5)	36 (90.0)	0	0	0	1 (2.5)	2 (5.0)	
質問8	2 (5.0)	26 (65.0)	2	0	2	6 (15.0)	1 (2.5)	1 (2.5)
集計／ 回答数	8	199	7	1	5	8	12	1

表2より、アンケート調査の質問2から質問8までの結果を人単位で把握できる。表の1段目はうち、わたし、あたし、俺、僕、自分、自分の名前など8、択の中にある一人称を表している。左の質問2から質問8は、アンケートの項目を表している。そして、最下部は、質問2から質問8までの回答の合計を表している。表中の数字のうち、上の数字は人数を、下の（）内の数字は、割合を表している。

集計結果を見ると、最も回答された一人称は「わたし」であった。その合計は約200であり、質問2から質問8で回答されていることから、会話の中でよく使われていることがわかる。次によく使われている一人称は、「自分の名前」であり、質問3、4、5、7で回答され、回答の合計は12回であった。また、8回答された一人称は、「うち」と「自分」の2つであった。うちは質問3、5、7、8で回答された。自分は質問3、4、5、7、8で回答された。以下、「あたし」は質問3、4、5、8で回答され合計7回、「僕」は質問2、3、6、8で

回答され合計 5 回となり、最も回答が少なかった一人称は「俺」と「わい」であった。俺は質問 3 のみで回答が見られ、「わい」は選択肢の中ではなく、質問 8 の自由記述の回答から見られた。

アンケート調査の質問 9 は、質問 1～8 を踏まえて、「よく使う一人称は何ですか、その一人称を選ぶ理由も教えて下さい」という質問に自由記述で答えてもらった。その結果、40 名中 35 名が回答した。自由記述（タイ語で記述）の内容は、日本語に翻訳し、同じ内容を表しているもの（「教科書で見た」「初めて覚えた」など）でまとめることにした。質問 9 の結果を図 2 に示す。

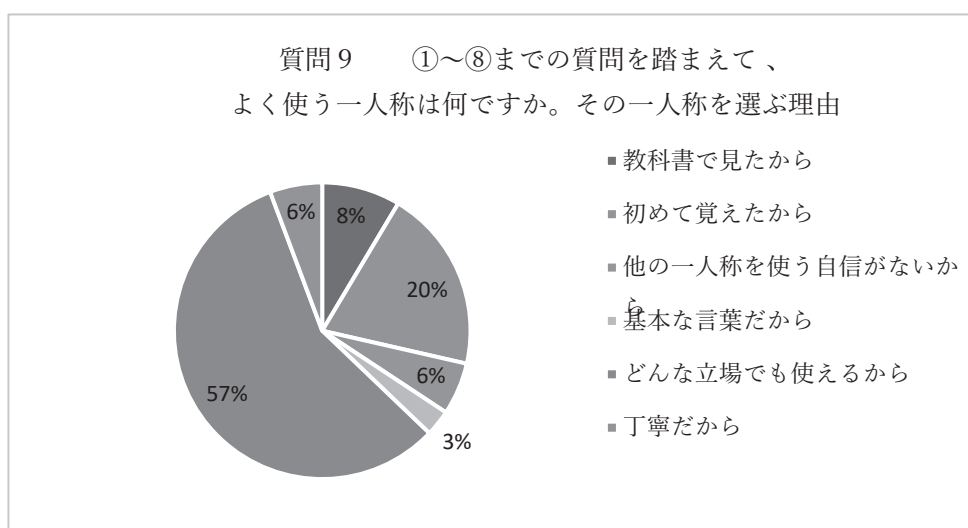


図 2 タイ人女性日本語学習者が「わたし」を一人称として選んだ理由

図 2 で示した結果から、「わたし」が選ばれた理由を 6 つに分けて捉えた。最も記入された理由は「どんな立場でも使えるから」という理由であり、約 20 名が回答した。次に多いのは「初めて覚えたから」という理由であり、7 名が回答した。そして、3 名は「教科書で見たから」と回答し、「他の一人称を使う自信がないから」と「丁寧だから」という理由はそれぞれ 2 名が回答した。その他、「基準なことばだから」という記述が 1 名から見られた。

6. アンケート調査とインタビュー調査の考察

アンケート調査の結果から、最も知られている一人称は「わたし」であることがわかった。図 1 を見ると、「わたし」は全ての 40 名の回答者が選んだ一人称だった。「わたし」が最も知られているのは、日本語学習者が最初に覚える一人称が「わたし」であるためだと考えられる。大浜ほか (2001) は、教科書で多く使用されている一人称が「私」であるこ

とを指摘している。

また、スニーラット (2020) によると、タイの日本語学習者に使用されている主な教科書は、『こはる』『あきこと友だち』『みんなの日本語』の3種類であるとされている。このうち、『こはる』は、タイの中等教育機関で日本語を選択科目として学ぶ生徒に向けて作られたものであり、『あきこと友だち』は、タイの日本語専攻クラスの高校生に向けて作られたものである。内容は、日本から来た留学生とタイ人の学生と一緒に遊んだり勉強したりする物語でその学生の会話から勉強する。『こはる』と『あきこと友だち』の2冊は、いずれも国際交流基金バンコクセンターとタイの学校の教員、大学の教員によって開発された教科書である。それぞれの教科書の初級で、「わたし」という一人称が教えられていることから、タイ人の学習者は「わたし」という一人称を初期の段階から知っていると考えられる(図3参照)。

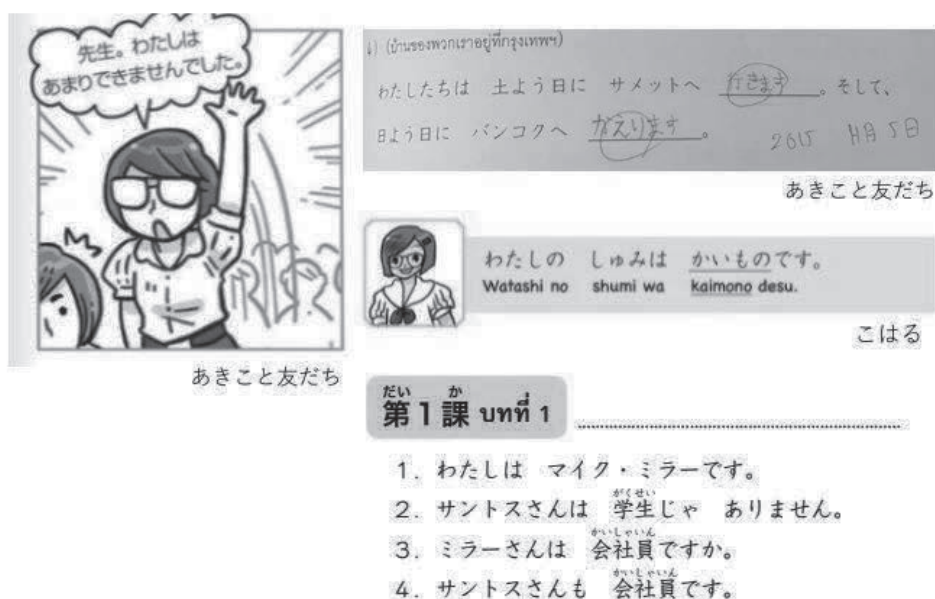


図3 「あきこと友だち」「こはる」「みんなの日本語」のわたしの使用¹

また、アンケートの質問2から質問8までの結果でも、最も使われている一人称は「わたし」であり、それぞれ70%以上占めていた。「わたし」の次に多く知られているのは「僕」と「俺」であった。「僕」という一人称について、大浜ほか (2001) によると、「わたし」

¹ 左上は『あきこと友だち』3のp.36、右上は『あきこと友だち』ワークブック、右中央は『こはる』1のp.60、右下は『みんなの日本語』1のp.26の例である。

の次に多く教えられている一人称であるとされている。上述の『こはる』や『あきこと友だち』の中でも指導項目として含まれている一人称であることから、タイ人日本語学習者も教科書から「僕」という一人称を知ったと考えられる。

次に、タイ人女性の日本語学習者が「わたし」という一人称をよく使用している理由について考察する。一言で言えば、日本語の一人称に翻訳された時に様々なタイの一人称に当てはまるためだと考えられる。スワット (2018) によると、様々な日本文学作品 (『窓ぎわのトットちゃん』、『こころ』、『銀河鉄道の夜』、『個人的な体験』、『ガラスのうさぎ』、『ヴィヨンの妻』など) がタイ語に翻訳された際、「わたし」という言葉はタイ語の一人称である「ฉัน: chǎn」、「ดิฉัน: dichǎn」、「หนู: nǔu」、「ผม: phǒm」の4つの一人称に翻訳された。スワット (2018) は、タイ語に翻訳された一人称がどのように使われているかについて、以下の表3のようにまとめている。

表3 代名詞を一人称に翻訳する時の傾向：スワット (2018) より引用

順番	日本語	翻訳された言葉 (一人称)	文学に 出現頻度	翻訳する傾向
1	わたし	หนู: nǔu	26	話し手が女性である。 相手に対して身分が低い。 相手と親しくてもなくても使われる。
		ฉัน: chǎn	146	男女問わず使われる。相手との親しさや年 上年下も関係なく使われる。
		ผม: phǒm	52	大人の男性であること。相手より身分が低 い。親しさと関係なく使われる。
		ดิฉัน: dichǎn	33	女性であること。年上か年下かである。相 手より身分が低い。親しさと関係なく使わ れる。

表3を見ると、女性であることから翻訳された一人称は、「หนู: nǔu」と「ดิฉัน: dichǎn」の2つである。一方、「ฉัน: chǎn」は、男女や年齢、関係などを問わず使われる表現であり、日本語の「わたし」と最も似ていると考えられる。本研究で行ったインタビュー調査でも、質問4 (「わたし」が使われる理由は「どんな立場でも使える」ということですが、ご自分自身はこの理由について賛成しますか。それとも違った意見がありますか) に対し、4名の対象者 (日本人の女子大学生) は「賛成」と答えた。

タイ人女性の日本語学習者で、「わたし」の次に回答数が多いのは、「自分の名前」であ

った。パーシニー（2012）によると、タイ南部の若者の女性は、年上、年下、同僚、友達に対し、自分の名前を最も使用したことが示されている。また、その理由は、相手と同じ身分であることを表現するためであるとされている。本研究の対象者は、タイ南部ではなくタイ中部の日本語学習者であるが、図4を見ると、「自分の名前」が回答された項目はパーシニー（2012）の結論と非常に類似している。

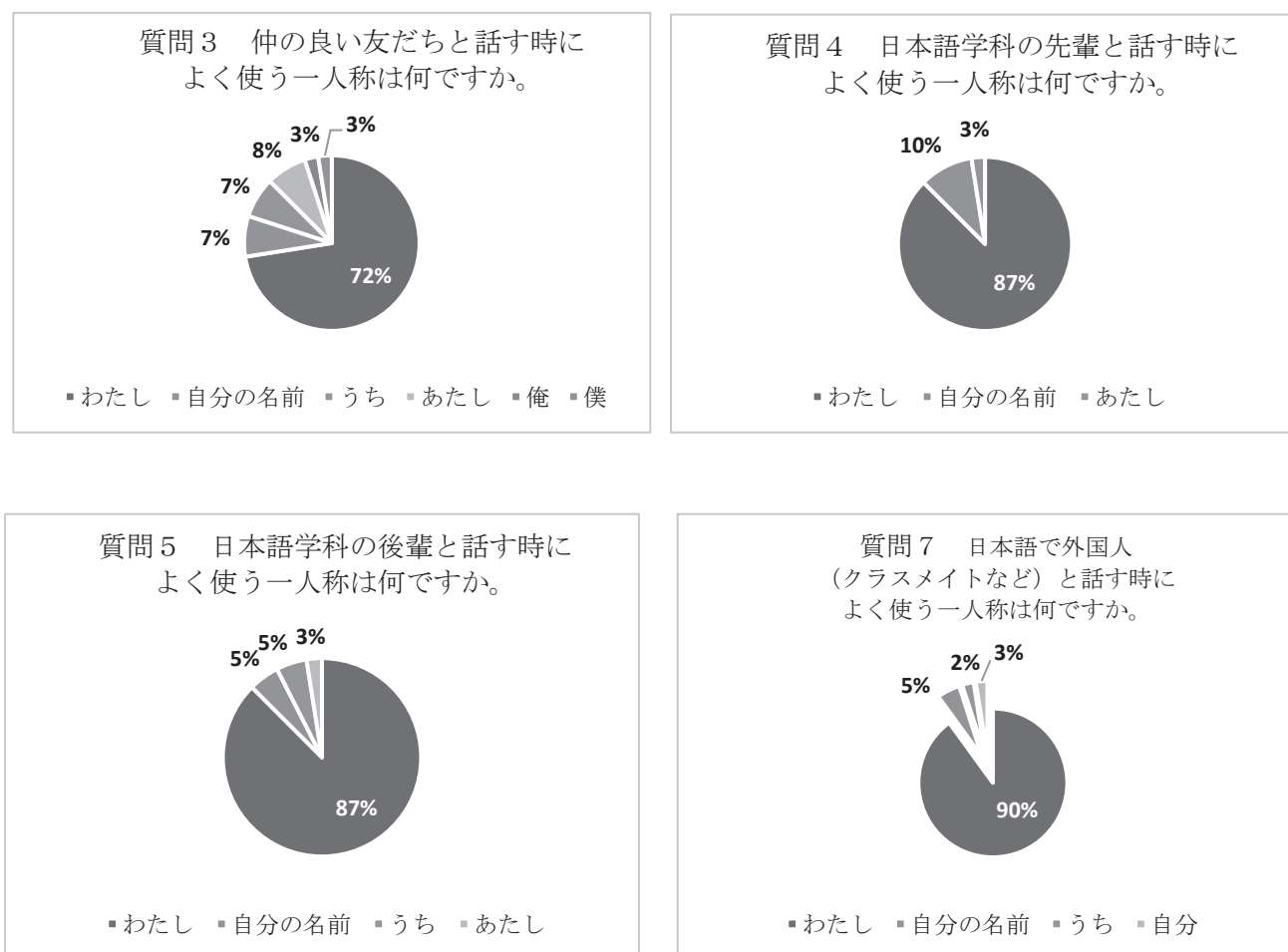


図4 よく自分の名前を一人称として使う場面

図4で示したように、質問3、4、5、7、の結果、最も使われている一人称は「わたし」だが、「自分の名前」の使用も見られた。質問3、4、5、7は、「仲の良い友達」「先輩」「後輩」「クラスメイト」が相手である。つまり、知っている人であり、先輩と後輩でもあるが、立場や身分の方が重視される。パーシニー（2012）で、自分の名前を一人称にするのは同じ身分を表現するためであるということが示されているが、本研究で「自分の

名前」を選んだ回答者も、自分が相手と同じ学生であることを示すために、「自分の名前」を使用することを選択したのではないかと考えられる。

一方、質問2、6は、「先生」や「知らない人」が相手であるが、これらの項目では、「自分の名前」の回答は見られない。これは、「先生」が相手でありそもそも同じ身分ではないこと、また、「知らない人」についてはどのような人であるか把握していないことから、自分が相手と同じであるということを示すことができず、「自分の名前」を使用する回答者がいなかったからではないかと考えられる。

一方、日本語母語話者の場合、上記のような「自分の名前」の使用はあまり見られない。日本人へのインタビュー調査で、ある対象者は、「(自分の名前を使用することは)子供の頃から、とても直された。よくAちゃんねっていう人は時々、私の同級生でもいるけど、ちょっとそれは恥ずかしいのではないかとということで変えた。小学校入る前に直した。小学校だと小学校の一年生だとはるかちゃんねとか、ゆいちゃんねとかいう人はいる。三分の一くらい。」と述べていた。このことから、上記のタイ人の「自分の名前」の仕様の考えが、日本人には見られないことがうかがえる。

スシャーダー (2017) の、一人称と二人称の使い方と比較に関する研究における、話者の年齢と一人称の使い方によると、タイの若者 (15~20 歳) は、話し相手が年上の場合、わたし (พู่: nǔu、ดิฉัน: dichǎn) などが使われていたが、3 番目に多く使われているのが「自分の名前」であった。一方、スワット (2018) は、石黒 (2013) の以下の図 5 を引用し、一人称は年齢による変わると述べた。

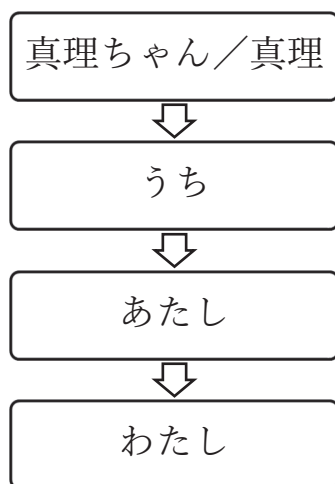


図 5 女性の年齢による一人称の変化：石黒 (2013) より引用

スワット (2018) では、男性の一人称の図と女性の一人称の図が示されている。スワッ

ト（2018）は、男性の一人称についてのみ述べているが、本研究は女性の一人称がメインになっているため、女性の一人称の図を引用し、考察する。「真理」は、子供の時は自分に対して「真理ちゃん」や「うち」などを使用する。やがて中高生になると、「あたし」を使用する。だが、大学生になり、就職活動が始まる時期になると、使用する一人称を「わたし」に直すと考えられる。実際、本研究でも日本人大学生へのインタビュー調査では、以下のような意見があった。

高校生までは結構うちとか言っていたけど、大学生とか大人になってくるにつれてあんまり人の前でうちっていうのもちょっとあれだから、良くないと言うか。丁寧な言い方。やっぱり私が目上の人とか話す時は私ではないとちょっと失礼。大学生とか、社会人になってから友達でもわたしとか。（中略）子供の時からうちでそれは直そうと思って私って最近は言っている。でもたまに出ちゃう。（ある1名の回答より）

上記のインタビューの回答から分かるように、日本人女性は、年齢が上がるにつれ、他の人の目や社会のルールを気にするようになり、一人称を変える場合があることが推察される。本研究のタイ人の日本語学習者が「自分の名前」を一人称として使っていたのは、タイでは名前を一人称にしても、図5に示したような子供っぽいというイメージではなく、同じ身分を表現するためのものであると思われる。その結果、タイ人日本語学習者は日本語でも「自分の名前」を一人称として使う場合があると考えられる。

7. 結論

本調査では、本研究のタイ人女性の日本語学習者は「わたし」を最も使用すると明らかになった。その理由として、アンケート調査から、「わたし」という一人称は「どんな立場でも使えるから」が多かった。この理由について、日本語母語話者に対するインタビュー調査では、4名全員が賛成（理解できる）と回答した。また、インタビュー調査では、日本語母語話者は目上の人に対し「わたし」を使わないと失礼だと感じるという意見もあった。また、タイ人女性の日本語学習者は「わたし」だけでなく、一人称として「自分の名前」を使用することも明らかとなった。石黒（2013）によると、「自分の名前」は一般的に子供の頃に使用する一人称である。本研究のインタビュー調査でも、日本語母語話者は子供の頃に使ったことあるが、「わたし」に直したという意見があった。一方、タイ人日本語学習者への調査では、そのような意見は得られなかった。これは、一人称として「自分の名前」を使用するのは、「自分は相手と同じ立場である」ということを示すためであるというタイの文化が影響していると考えられる。

本研究から考えられる結論として、日本語の一人称をタイ人日本語学習者に教える際には、単にタイ語に翻訳するではなく、一人称に関する日本の価値観も教えるべきである、という点を提案したい。本研究で示した結果からは、「誰に対し、どのような一人称を使ったらいいのか」という点について、タイ人日本では違った対応の仕方が必要であることが考えられる。日本語を学習し、将来敵に日本人とコミュニケーションをする際に、失礼な態度や悪いイメージを与えないように、一人称についてもより細かく指導する必要がある。

参考文献

- 石黒圭 (2013) 「日本語の人称表現」『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』, 149-181, 光文社
- 大浜るい子・荒牧ちさ子・曾儀 (2001) 「日本語教科書に見られる自称詞・対称詞の使用について」『教育学研究紀要 第47巻』, 342-352
- 高橋美奈子・谷部弘子・本田明子 (2019) 「日本語学習者にみられる日本語のジェンダー規範意識」『ことば』40, 72-89
- ニャンジャローン・スック, スニーラット (2020) 「タイにおける日本語教育—中等教育を中心に—」『シリーズ新しい日本語教育を考える』9, 145-161
- ニンティニャンヴァン (2017) 「日本語の自称詞・対称詞の研究」『人間生活文化研究』, 493-494
- 野原加奈子 (2014) 「大学生の一人称の使用についての研究」『宇都宮共和大学都市経済研究年報』, 91-122
- ภาชนี เต็มรัตน์ (2012) คำสรรพนามแทนตัวผู้พูดในพื้นที่พหุวัฒนธรรมชายแดนใต้, วารสารรัฐสมิถ, 88, กองการบริการศึกษามหาวิทยาลัยสงขลานครินทร์ วิทยาเขตปัตตานี.
- สุชาติ เจียงพงษ์ (2017) อายุของผู้พูดกับการเลือกใช้คำสรรพนามบุรุษที่ 1 และ 2 : การศึกษาเปรียบเทียบรูปคำและการใช้, วิจัยวรรณสาร, 113, เครือข่ายนักวิชาการด้านภาษาและวัฒนธรรม.
- สุวัฒน์ เรืองศรี (2018) การศึกษากลวิธีการแปลคำสรรพนามในวรรณกรรมญี่ปุ่นแปลไทย, 24 - 25
- http://ethesisarchive.library.tu.ac.th/thesis/2018/TU_2018_5906032031_9603_9519.pdf
(2022年7月29日最終アクセス)
- パーシニー (2012) 「南部地域の自称詞」『RUSAMILAE JOURNAL』, 88, パッター二一の教育コンスタント.
- スシャーダー (2017) 「話者の年齢と一人称代名詞と二人称代名詞の選択 : 語形と用法の

比較研究』『Wiwitwannasan』, 113

スワット (2018) 「日本文学における日本語とタイ語の代名詞の翻訳方法に関する研究」

http://ethesisarchive.library.tu.ac.th/thesis/2018/TU_2018_5906032031_9603_9519.pdf

(2022年7月29日最終アクセス)